

地域とのつながりややりがいを持って、これまでの暮らしができる生活を目指す

～市内グループホームの取組み～

市内には、介護サービスを提供している入所施設がたくさんあります。今回は、市内のグループホームの取組みやその様子をご紹介します。それぞれの施設が、入所されている高齢者のみなさんのこれまでの暮らし方を大切にして、その人のやりがいを生かせるように工夫をされています。



入所者のみなさんのやりがいにつながる役割と笑顔大切にしたい

(グループホームおひさまの大地)

高鷲町にあるグループホームおひさまの大地では、「みんなの中で、自分も何かの役割を持って役に立ちたい」という気持ちを大切に、入所者のみなさんが毎日の暮らしの中でできることを楽しみながら笑顔で過ごせることを目指しています。



夕食の支度はみなさんの楽しみです。献立をみなさんで考え、時には外に出て食材を畑や野山から調達して作ります。春はふきのとうを摘んで洗って天ぷらにします。季節の味をいただきます。



油揚げに酢飯を入れるいなり寿司作りや摘んできたあずきの仕分けなど、みなさんでおしゃべりしながらの食事の支度は楽しいひとときです。

おしゃべりしながらの洗濯物干し。「そっち、持ってね」など、一緒にする家事は、家庭生活の延長です。



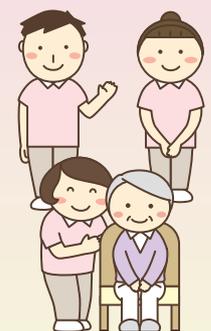
おひさまの大地ではヤギを飼っています。ヤギたちへ干し草をあたえることも日課の一つとなっています。



施設で働く介護職員のみなさんに「やりがい」について聞いてみました

- 入所者のみなさんの中には、グループホームが最後の住処となる人もいらっしゃいます。その入所者のみなさんの大切な終焉を素晴らしいものに創り上げられるところ。
- 自分の祖父母のように関わらせていただけたところ。
- 入所者のみなさんの笑顔を作ることができるところ。その笑顔が見られるところ。
- 入所者のみなさんがこれまでの人生で身に付けられた「宝もの」をたくさん教えてもらえるところ。
- 「ありがとう」の感謝の言葉をいただけたところ。

入所者のみなさんと介護職員の、人と人の温かい関係を感じました。



地域とのつながりを大切に暮らす

(郡上乃風グループホーム清流の家)

八幡町にある郡上乃風グループホーム清流の家では、外に買い物に出かけたり、地域の行事に参加したり、施設に入っても「地域とのつながり」を感じ、地域の一員として暮らせることを大切にしています。また、生まれ育った『郡上』の文化や伝統、生活習慣を大切にする取組みに力を入れ始めました。入所者のみなさんにもやりがいや生きがいを感じていただける支援を目指しています。



慣れ親しんだ生活習慣を大切にするため、食後には入所者のみなさんが急須でお茶をいれ、美味しいお茶を飲まれています。八幡町内の茶舗へ「上玄米茶」を買いに職員と一緒に出かけます。住み慣れた町を自分の足で歩き、顔なじみのお店で買い物をする「郡上ならではの暮らし」を継続するための取組みです。



長年に亘って作り続けた「白菜の切り漬け」は、それぞれの家庭の味。切り方から塩加減まで全て入所者のみなさんにお任せ。漬けた後は漬物桶を毎日混ぜて味をみるのがみなさんの日課となりました。毎日の食卓に郡上の味、美味しい漬物が並びました。



今年は初めて地域の井普請に入所者のみなさんが参加しました！お元気だった頃は地域の一員として長年参加していた人が多く、久しぶりの溝掃除と草むしりに熱が入りました。

自分がやりたいことを大切にできる施設での暮らし

(郡上八幡バラの家)

八幡町にある郡上八幡バラの家では、入所されてもこれまでの自宅での生活の延長として、その人にある力を生かしながらそれぞれのペースでの暮らしを大切にしています。



以前、デイサービスに通っていた時に行っていた食器洗いを、入所された今も職員と一緒にしています。



入所しても、大好きなお酒を飲むことができます。肝臓のことを考えながら、寝る前の週3回の晩酌はこの上ない楽しみです。
※主治医に相談しながら対応をされています。



長靴に履き替えて、鍬を持って、畑仕事が好きな人のために職員が作った畑で野菜作りを楽しみます。職員がサツマイモの作り方を教わるなど、頼られる存在です。

その他にも、施設内のイベントの時には得意なピアノを披露したり、自宅でもやっていたように隅から隅までモップで床をきれいにしたり、施設付近の草取りをしたり、洗濯物を干したりなど、自宅の延長のような暮らしをされています。